

カブリ賞授賞式

大栗博司 おおぐり・ひろし

Kavli IPMU 主任研究員

フレッド・カブリ氏はノルウェー出身の発明家で企業家です。ノルウェー工科大学で物理学を学んだ後、米国に渡り、ロサンゼルスで航空機や自動車の精密機器の会社を起こして財を成されました。2000年に経営から退かれ、カブリ財団を立ち上げ、基礎科学の振興に貢献されています。

カブリ財団は2000年にカリフォルニアにカブリ理論物理学研究所を設立したのを皮切りとして、現在では全世界で16の研究所を支援しています。IPMUも今年の2月にこのネットワークに加わり、Kavli IPMUと改名しました。これに伴い、カブリ財団からの寄付による基金が設立され、基金からの年間支払配当により本研究所の研究が助成されることになりました。また、カブリの名を冠した教授職基金をいくつかの大学に設立し、私もカリフォルニア工科大学で初代のカブリ冠教授に任命されています。

このカブリ財団のもう一つの大きな事業が、ノルウェー科学文学アカデミーとノルウェー文部省と共同で運営するカブリ賞の授賞です。天文物理学、ナノ科学、神経科学の3分野の顕著な功績が、カブリ財団と独立した委員会によって選ばれ、2年に1度ノルウェーのオスロで開かれる授賞式では100万ドルの賞金、純金のメダルと賞状が授与されます。



授賞式でスピーチをするフレッド・カブリ氏。向かって左側の前列に座っているのは、端から天体物理学賞受賞者のデイビッド・ジューイット氏、ジェーン・ルー氏とマイケル・ブラウン氏。右側は神経科学賞受賞者のアン・グレイビエル氏。

2008年に始まったカブリ賞は今年で3回目。私は、ベルリンで開かれていた国際会議で講演をしたあと、週末にオスロに向かいました。日曜日の夕方には、グランドホテルでカブリ財団主催のレセプションが開かれ、全世界から集合したカブリ研究所の所長、カブリ冠教授、過去のカブリ賞受賞者、そして今回のカブリ賞受賞者が紹介されました。カーボン・ナノチューブの発見に対して第1回のカブリ賞を受賞された飯島澄男氏とも再会することができました。

今回の授賞式はカブリ研究所の間の交流にもよい機会でした。天体物理学の分野では、スタンフォード大学、シカゴ大学、MIT、北京大学、ケンブリッジ大学にあるすべてのカブリ研究所の所長がオスロに勢ぞろいしたので、カブリ賞に関連したイベントの合間にインフォーマルな会合があり、Kavli IPMUの村山斉機構長も参加することができました。

月曜日の午前中には、オスロ大学で受賞者による講

演会がありました。天体物理学賞の授賞対象は、海王星の軌道の外側にあるカイパーベルトの天体の発見とその研究による太陽系の起源の解明。受賞者の一人でカリフォルニア工科大学で私の同僚でもあるマイケル・ブラウン氏は、カイパーベルトに大きな天体を見つけることで、冥王星が惑星から準惑星に降格になる契機を作ったことでも知られています。ナノ科学賞受賞者は、ナノ構造の解明に先駆的な研究をされたMITのミルドレッド・ドレッセルハウス氏。カブリ賞初の単独受賞です。また神経科学賞は、認知や意思決定にかかわる神経機構の解明に貢献した3名が受賞しました。講演をお聞きして、高解像度でニューロンの活動を観察する新技術など、神経科学とナノ科学の連携にも強い印象を受けました。今回は、7名の受賞者のうち4名が女性であったことも特筆すべきでしょう。

午後には公衆衛生についてのカブリ科学フォーラムがあり、日本からは政策研究大学院大学の黒川清氏がパネリストとして参加されていました。夕方にノルウェー科学文学アカデミーで開かれるレセプションに出席するために王宮の庭を歩いていくと、5次以上の代数方程式には根の公式がないことを証明した数学者ニールス・アーベルの大きな記念碑がありました。首都の最も重要な位置におかれているのが、数学者の記念碑だというのが素敵だと思いました。

翌日の授賞式はオスロ市のコンサートホールが会場。日本学術会議からは春日文子副会長が列席されていま



カブリ賞受賞記念夕食会会場にて、村山斉Kavli IPMU機構長(右)と大栗博司主任研究員夫妻(左)。

した。ノルウェー国王のハーラル5世がご臨席になり、受賞者一人ずつに賞状と純金のメダルを手渡されました。授賞式の最後にはフレッド・カブリ氏が登壇され、宇宙物理学、ナノ科学、神経科学の各々の分野の最近の発展をご自身の興味に沿ってお話になりました。自然を理解することでより豊かに生きることのできる喜びを、情熱を持って語るすばらしいスピーチでした。

受賞記念の夕食会は、ノーベル平和賞授賞式の時と同じく、オスロ市の市庁舎の大広間で開かれました。ブラック・タイもしくは自国の民族衣装。ノルウェー人の参列者には、ノルウェー各地の民族衣装をお召しになっている方も多くいらっしゃいました。夕食会はオスロ市長の歓迎の辞から始まり、受賞者を代表するスピーチは「炭素の女王」と紹介されたドレッセルハウス氏。合間にはノルウェーの若手音楽家たちの楽しいショーもあり、気取らない心づくしの歓待で、気持ちのよい夕食会でした。デザートが終わるとオスロ市長が「では2階にコーヒーを用意しました」とおっしゃいます。オスロ湾を見渡す2階の広間ではダンスが始まり、ホテルに戻ったときには深夜零時近くになっていました。